

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	人間関係と看護		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	各教室
担 当 教 員	戸板 宏一郎	実務経験とその関連資格	医療施設にて看護師として勤務していた。			
《授業科目における学習内容》 (前期15時間) 看護におけるコミュニケーションは、患者を直接理解する最も基本的な技術である。そのためには意図的なかかわり方が必要になるが、実際に目的が達成できたのか評価・検証しなければならない。この科目では効果的なコミュニケーション技術を学び、リフレクションとプロセスレコードを用いて振り返りを行う。						
《成績評価の方法と基準》 出席状況・授業態度・レポート・演習点と筆記試験						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ(医学書院) 自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード(日総研)						
《授業外における学習方法》 実習でコミュニケーションが円滑に行えるように、技術と振り返り方法を必ず復習してください。課題となった場合には、必ず期限内に、指示されたとおりに記録し提出してください。この科目では特に提出物が評価に大きく影響します。						
《履修に当たっての留意点》 テキストや資料は基本ですが、授業でのポイントが重要となるので、メモなどを取って積極的に取り組んでください。提出物は指示に沿った記録内容、記録方法が評価の基準となるため、授業をよく聞いておくことが大切です。わからない点はそのままにせず、質問を積極的に行って理解してください。また欠席も評価に影響することになるので十分注意してください。						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護におけるコミュニケーションの基本を理解できる。	指定教科書他	教科書や資料で予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	I コミュニケーションとは～Ⅲケアリングとコミュニケーション			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護におけるコミュニケーションの特性を理解できる。	指定教科書他	教科書や資料で予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	Ⅳ看護理論とコミュニケーション～Ⅴ看護とコミュニケーション			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護のコミュニケーションを取り巻く状況について理解することができる。	指定教科書他	教科書や資料で予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	Ⅵコミュニケーションのプロセスに影響する要因			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	医療のコミュニケーションの基本には信頼関係があることを理解できる。	指定教科書他	教科書や資料で予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	Ⅶ医療における信頼関係とコミュニケーション～Ⅷ障害がある人への対応			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	リフレクションを理解し、状況を振り返る方法が理解できる。	指定教科書他	教科書や資料で予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションの演習(リフレクション)①			

授業の方法			内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	リフレクションを利用し、コミュニケーションの振り返りができる。	指定教科書他	教科書や資料で予習・ 復習を行う
		各コマに おける 授業予定	コミュニケーションの演習 (リフレクション)②		
第7回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	プロセスレコードを理解し、状況を振り返る方法が理解できる。	指定教科書他	教科書や資料で予習・ 復習を行う
		各コマに おける 授業予定	コミュニケーションの演習 (プロセスレコード)①		
第8回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	プロセスレコードを利用し、コミュニケーションを振り返ることができる。	指定教科書他	教科書や資料で予習・ 復習を行う
		各コマに おける 授業予定	コミュニケーションの演習 (プロセスレコード)②		